

# 文化財への道

## めおといけ 女夫池の妙見さん

豊臣の時代、能勢氏の大坂屋敷は「石田三成の隣」と『能勢物語』にあり、今の地下鉄谷町線天満橋駅あたりと思われます。徳川の時代、能勢氏の江戸屋敷は桜田溜池の下（1202坪半）でしたが、大塩の乱の後、頼次から数えて10代目の能勢頼功の時、約230年ぶりに天満に帰ってきました。

天保13年（1842年）、20歳で家督を継いだ11代頼富は、14代将軍徳川家茂に大坂城で仕えるため、江戸の屋敷を幕府に返上し、本拠を夫婦池跡地の天満屋敷に置きました。元治元年（1864年）頼富は、幕府の命により日ノ岡峠警衛京都見廻り役、蛤御門変で御所を守り、その功績によって従五位日向守になりました。慶応3年（1867年）には朝廷の命により護京師、明治元年（1868年）鳥羽伏見の戦いで御所警護の功績により朝臣となり、明治2年（1869年）明治天皇の東遷にお供し、翌3年版籍を奉還、知行召し上げとなりました。

頼富は、天満邸内に妙見堂を建立し、能勢妙見山の霊像を法華勧請しました。寺は、「お殿さまのお寺」とか「女夫池の妙見さん」と呼ばれ、親しまれました。

安政2年（1855年）の『摂津名所図会大成 巻12』～暁鐘成～には、  
「池を埋みて平地となり ここに能勢侯の邸を建てられ 門内の傍らに妙見堂を勧請あり  
これはすなわち摂州能勢郡野間村妙見山の本尊同体の  
霊像にましませば 応驗わけて新たなりとて 貴賤す  
べて詣でて晴雨ともに間断なし ことさら午の日は御  
縁日なりとて詣人群をなし 夜店の商人など多く出て  
いとにぎわし」とあります。明治15年（1882年）森  
琴石が『大坂名所独案内』に紹介すると、市内に妙見  
信仰が高まり、桜並木の妙見堤は景勝地となり花見客  
も出て大にぎわいとなりました。



文・平尾 悦子

◎歴史探索講座「能勢街道と天満」を開催します。詳しくは7ページをご覧ください。

### 人の動き [2月1日現在]

( )内は前月比

人	口	10,072 (-36)
	男性	4,866 (-24)
	女性	5,206 (-12)
世帯数		4,539 (-7)
転入		14 (-12)
転出		38 (+8)
出生		2 (±0)
死亡		14 (+2)

### 1月中の交通事故発生状況

種別	能勢町	豊能町	合計
人身事故	5件	4件	9件
程度	死亡	0人	0人
	重傷	1人	0人
	軽傷	8人	7人
物損事故	22件	19件	41件
総件数	27件	23件	50件

横断歩道しっかり渡って事故防止  
(能勢町交通事故をなくす運動推進本部)